

鈴木宏昌医師退任のご挨拶

退職にあたって

今年度、3月末で当院を退職することになりました。5年間、何とか無事に医師として務めることが出来たのは皆様(職員はもとより、患者様、町民の皆様)のおかげです。大変ありがとうございました。

～5年そして15年～

2021年4月にこの県立山田病院に着任、早くも5年が過ぎました。そしてあの日「東日本大震災」から15年の節目を迎えます。着任時の挨拶で述べましたように、私は15年前DMAT(災害派遣医療チーム)として「一人でも多くの被災した重傷者を救出するぞ」と意気込んでこの地を訪れました。しかし、必要とされていたのは全く異なった活動でした。あのとき、僅かな支援しかできなかったことがずっと心残りでした。そこで5年前、東京の大学を退官したのを機に、この地で今必要とされている医療に少しでも貢献できればと思い参りました。



旧山田病院から救出された患者さんを搬送する(2011年 宮古病院)

～I♥YAMADA!～



山田湾展望広場から

その地のニーズを知るには、まずは「その土地を知り、その土地を愛する」ことから思い、山田町のほぼ全域を自転車で走り回りました。近隣でも、南は大槌、北は宮古まで自転車で訪れました。海と山、四季折々の自然、都会では見ることのないあかね色に燃える夕焼け。

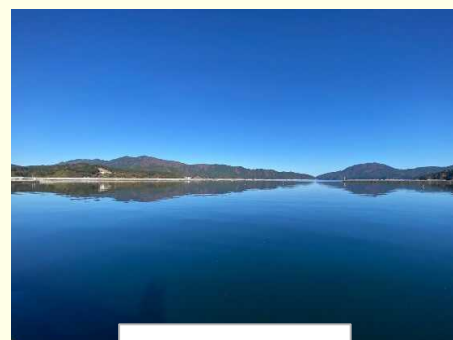


山田の夕焼け(山田病院から)

青く光る山田湾。豊かな時の流れ、そして「祭り」の熱気。更に、岩手県全域を車でも走り回りました。ご存じでしょうか、岩手県は東北6県で最も道の駅が多い県だということを。39駅もあります。この5年間で岩手県の全道の駅も4回は走破しました。平庭・葛巻の高原から八幡平アスピーテライン、花巻の温泉郷や遠野・住田の「里山」。まさに日本の原風景そのものが感じられます。



大杉神社神輿の海上渡御



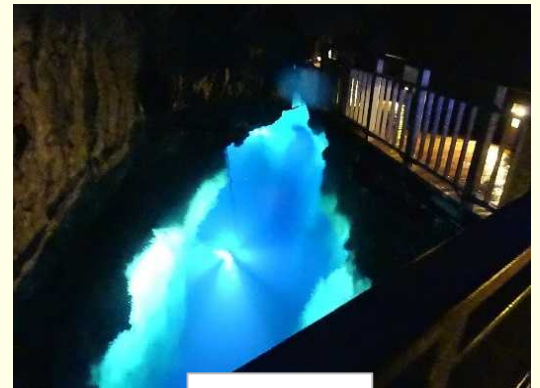
山田湾の秋(2023年)



北山崎展望台から

また、海の幸、山の幸、季節の食材も実に豊かです。

「地元」というものは住んでいる人にとっては変わり栄えがなく珍しくもないものと感じがちで、改めて見て歩くことは少ないかも知れません。しかし、関東育ちの私には実に感動の連続でした。



岩泉 龍泉洞

～アナザー「原点」～

そんな山田で学ばせて頂いたことがあります。私の専門は救急医学です。救急医療はよく「医の原点」と言われます。ケガにしても病気にしても、痛みや苦しみから早く逃れたいと人は医療を求めます。確かに救急医療は最初に医療を求める門戸と言えるでしょう。近年医学の進歩はめざましく、高度化し専門化してきました。そしてより高度で最先端の医療を人々は追い求めてきました。しかし、それはどんな時でも、どんな場所でも、誰にとっても、常に必要とされているとは限りません。すべての人が同じ医療を求めているわけではなく、同じ医療で幸せが得られるわけでもないのでしょう。あるコマーシャルに「'手当'とは手を当てると書くでしょ、〇〇大学の学生さんが手を当ててくれて…」というフレーズがあります。英



秋の岩手山(パノラマライン)

語でも治療することを「care(ケアー)」と言いますが、careの語源は「心配・悲しみ」に対して「配慮・治療」することで医療や治療ばかりでなく「面倒を見る」「気にかける」と言った広い意味合いを持つ言葉です。

確かに、この地域では最先端の医療を受けることは難しいでしょう。標準的な医療ですら叶わないこともあるかも知れません。でもこの地域で本当に求められている医療は何なのか、そこにもう一つの「医の原点」があるのではないかと気づかされました。



田野畑村 思惟大橋から



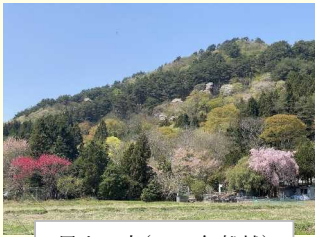
焼走り溶岩流から望む冬の岩手



室根山のつつじ群生地(2025年)

～「客土」～

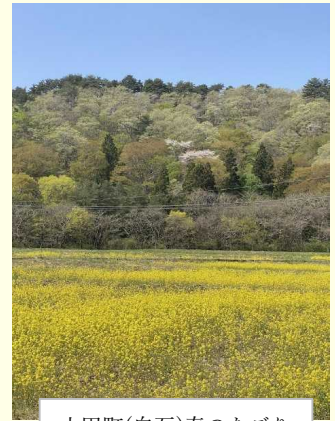
皆さんは「客土」という言葉をご存じでしょうか。「客土」とは、他の場所から土を運び入れることで土壌を改良することです。四国徳島県の吉野川流域は藍染めに使う「藍」の日本一の産地であることをご存じでしょうか。よい「藍」が出来るために大切なのは「客土」なのだそうです。



里山の春(2024年船越)

時折起こる吉野川の氾濫によって、上流から新たな土壌が流れ込むことでよい「藍」が育つのだそうです。地域の良さを知ってもらい発展するには「客土」が必要なのかもしれません。さまざまな人々を外から受け入れ、

新しい感動と発見、発想と創造により岩手が、三陸が、山田町が「復興」ではなく「発展」することを祈っております。



山田町(白石)春のなごり



箱根山展望台(陸前高田)から望む広田湾

令和7年度医療局所属長職員表彰

医療局では、業績や成果を表彰することにより、職員の意欲及び満足度の向上に資することを目的として、

所属長職員表彰を実施しています。今年度も、職員の功績や様々なことに貢献した職員を対象に実施しました。

今後とも、医療従事者としての自覚と尊厳を持ち、安心と最善の医療に取り組んでまいります。

今年度の表彰内容をご紹介します。

- ・地域包括ケア病床入床判定会議
地域包括ケア病床の運用にあたり、患者受け入れの可否を適切に判断し病床の効率的な運用に努めた。
- ・リハビリテーション技術科
地域包括ケア病床の運用にあたり、ADL等の評価のほか、在宅復帰に向けたプランの策定を適切に行うなどリハビリケアの質向上に努めた。



4月診療日程表

曜日 診療科	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
					1		2		3	
内科					○	○	○	○	○	○
外科									○	
眼科									○	
	6		7		8		9		10	
内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
外科	○		○						○	
眼科	○									
整形外科		○								
	13		14		15		16		17	
内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
外科	○		○						○	
眼科	○								○	
小児科	○	○	○	○	○					
	20		21		22		23		24	
内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
外科	○		○						○	
眼科	○									
小児科	○	○	○							
整形外科		○								
	27		28		29		30			
内科	○	○	○	○			○	○		
外科	○		○		休診					
眼科	○									

5月診療日程表

曜日 診療科	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
									1	
内科									○	○
外科									○	
眼科									○	
	4		5		6		7		8	
内科							○	○	○	○
外科									○	
眼科										
整形外科										
	11		12		13		14		15	
内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
外科	○		○						○	
眼科	○								○	
小児科	○	○	○							
	18		19		20		21		22	
内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
外科	○		○						○	
眼科	○									
小児科	○	○	○							
整形外科		○								
	25		26		27		28		29	
内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
外科	○		○						○	
眼科	○								○	

※予定が変更になる場合がありますのでお問い合わせ下さい。

編集後記

日増しに暖かくなり、春の訪れを感じる一方で、3月は慣れ親しんだ方々との別れが胸に迫る季節でもあります。

今号の大きなニュースは、5年にわたり当院の診療を支えてくださった鈴木先生のご退職です。鈴木先生の誠実な診察と温かい笑顔は、患者様のみならず、私たちスタッフにとっても大きな心の支えでした。診察室から聞こえてくる先生の穏やかな話し声がなくなるのは非常に寂しい限りですが、これまでの多大なる尽力に、職員一同、心からの感謝を捧げたいと思います。鈴木先生、本当にお疲れ様でした。「別れ」は寂しいものですが、それは同時に「新しい門出」でもあります。鈴木先生が築いてくださった患者様との信頼関係を大切に引き継ぎ私たちはこれからも地域に根ざした医療を提供できるよう努めてまいります。



季節の変わり目、皆様どうぞお体をご自愛ください。次号では、また新しい風をお届けできることを楽しみにしています。

